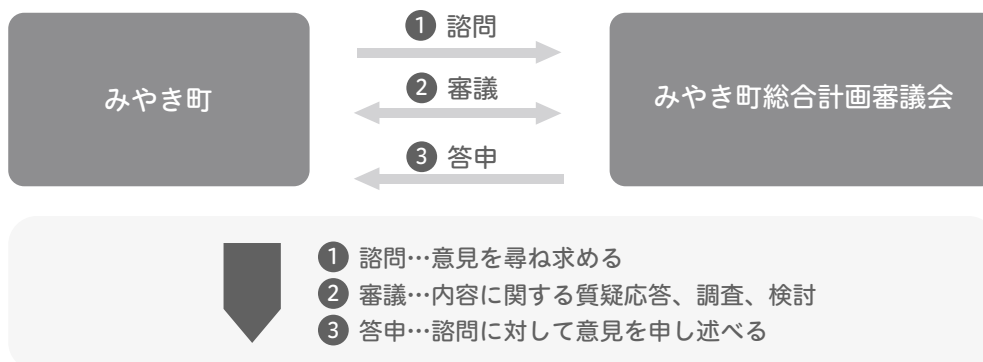


miyaki-town
資料編



miyaki
town
master
plan

諮問（書） 答申（書）



み 企 第 1 1 9 0 号
 令和 3 年 1 2 月 1 7 日

みやき町総合計画審議会 長 様

みやき町長 岡 毅

第三次みやき町総合計画について（諮問）

第三次みやき町総合計画について、みやき町総合計画審議会条例第2条の規定により、貴審議会の調査及び審議を求めます。

令和 5 年 1 月 3 1 日

みやき町長 岡 毅 様

みやき町総合計画審議会

会長 五十嵐 勉

第三次みやき町総合計画について（答申）

みやき町総合計画審議会条例第2条の規定により、令和3年12月17日付けみ企第1190号をもって諮問された第三次みやき町総合計画については、当審議会において審議した結果、別冊のとおり答申いたします。

策定経過

日 付	内 容
令和3年11月中	総合計画町民アンケート調査
令和3年11月9日	第1回高校生ワークショップ
令和3年11月12日	第2回高校生ワークショップ
令和3年11月23日	住民ワークショップ
令和3年12月17日	第1回みやき町総合計画審議会
令和4年3月29日	第2回みやき町総合計画審議会
令和4年4月27日	団体ヒアリング調査
令和4年6月28日	第3回みやき町総合計画審議会
令和4年9月22日	第4回みやき町総合計画審議会
令和4年11月29日	第5回みやき町総合計画審議会
令和4年12月12日 ～令和4年12月23日	パブリックコメント
令和5年1月31日	第6回みやき町総合計画審議会

みやき町総合計画審議会委員名簿

名 称	役職名等	氏 名	備 考
議会代表（３名）	みやき町議会 総務文教常任委員	中尾 純子	（前任）
		松信 彰文	（後任）
	みやき町議会 産業建設常任委員	平野 達矢	
	みやき町議会 民生福祉常任委員長	益田 清	
教育委員会代表（１名）	みやき町教育長	一木 徹也	
農業委員会代表（１名）	みやき町農業委員会 会長	鷺崎 和志	
農協代表（１名）	佐賀県農業協同組合 理事	丸野 隆司	
区長代表（３名）	中原校区区長会 会長	山本 直美	（前任）
		最所 正義	（後任）
	北茂安校区区長会 副会長	服部 洋	
	三根校区区長会 会長	江頭 研仁	（前任）
		北島 重樹	（後任）
商工会代表（３名）	みやき町商工会 会長	原 佳彰	
	みやき町商工会 青年部長	牟田晋之輔	
	みやき町商工会 女性部長	弓 米子	
婦人会代表（１名）	みやき町婦人会 会長	向井 敏子	
民生委員代表（１名）	みやき町民生委員児童委員協議会 会長	中島美砂子	
学識経験を有する者 （６名以内）	みやき町老人クラブ連合会 会長	中島 正利	
	みやき町文化連盟 会長	末永 秀美	
	国立大学法人佐賀大学 教授	五十嵐 勉	
	NPO 法人きゃんどうるハート 事務局長 （子育て支援団体代表）	前田 優一	
	みやき町地域医療推進政策顧問	野瀬 大補	
	みやき町社会福祉協議会 事務局長	井手 康幸	

町民アンケートの結果（抜粋）

1. 調査の目的

本調査は、これからのまちづくりの指針となる「第三次みやき町総合計画」の策定にあたり、住民の皆様のご意見を広くお伺いすることを目的として実施した。

2. 調査概要

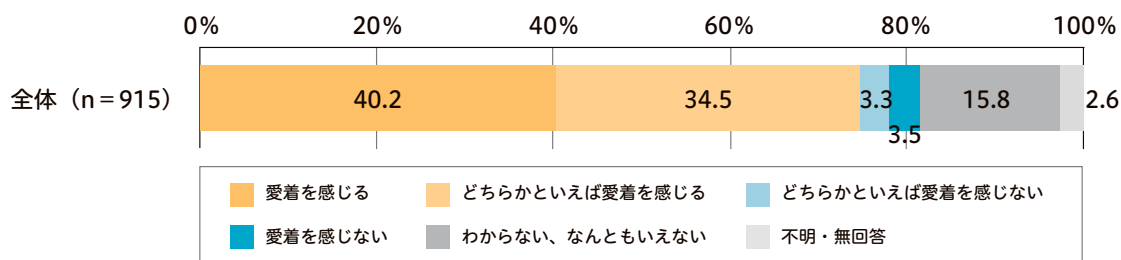
- 調査対象者：町内在住の15歳以上の方から2,000名（無作為抽出）
- 調査期間：令和3年11月2日（火）～17日（水）
- 調査方法：郵送配布・郵送回収による本人記入方式またはWebでの回答

3. 回収結果

配布数 (A)	回収票数 (B)	回収率 $\frac{(B)}{(A)}$	有効数 (C)	有効 回収率 $\frac{(C)}{(A)}$
2,000 件	調査票 780 件 Web 137 件 合 計 917 件	45.9%	調査票 778 件 Web 137 件 合 計 915 件	45.8%

■みやき町に愛着を感じていますか。(1つに○)

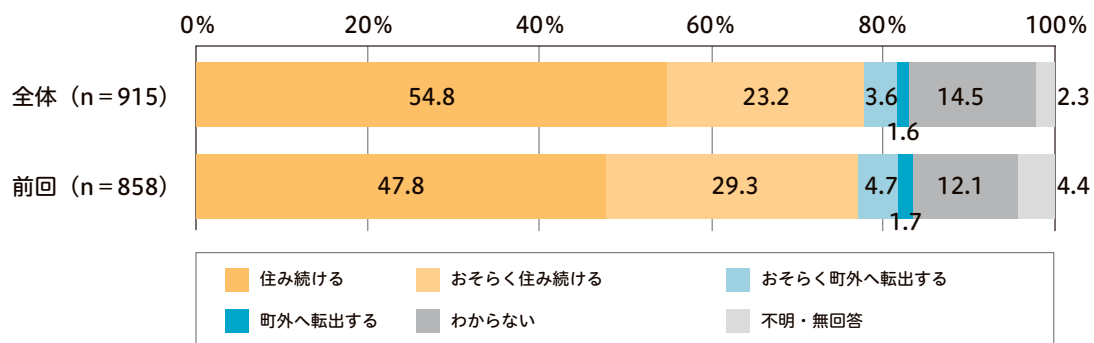
みやき町に愛着を感じているかについてみると、「愛着を感じる」が40.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば愛着を感じる」が34.5%、「わからない、なんともいえない」が15.8%となっています。



■あなたは、これからもずっとみやき町に住み続ける予定ですか。(1つに○)

みやき町に住み続ける予定かについてみると、「住み続ける」が54.8%と最も高く、次いで「おそらく住み続ける」が23.2%、「わからない」が14.5%となっています。

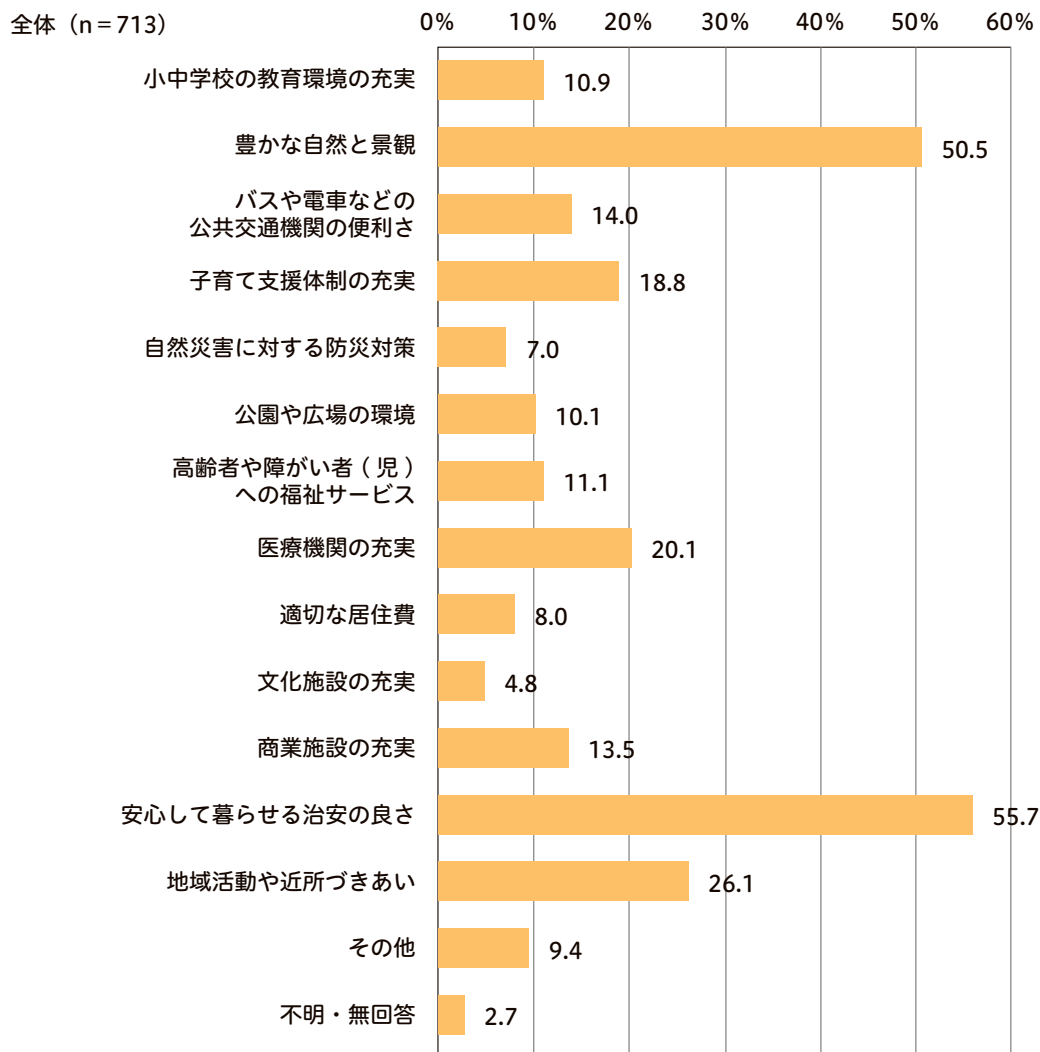
前回調査と比較すると、「住み続ける」では7.0ポイント高く、「おそらく住み続ける」では6.1ポイント低くなっています。



※前回調査では「おそらく町外へ転出する」は「おそらく転居する」、「町外へ転出する」は「転居する」の選択肢

■あなたが思う、みやき町の魅力は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

みやき町の魅力についてみると、「安心して暮らせる治安の良さ」が55.7%と最も高く、次いで「豊かな自然と景観」が50.5%、「地域活動や近所づきあい」が26.1%となっています。



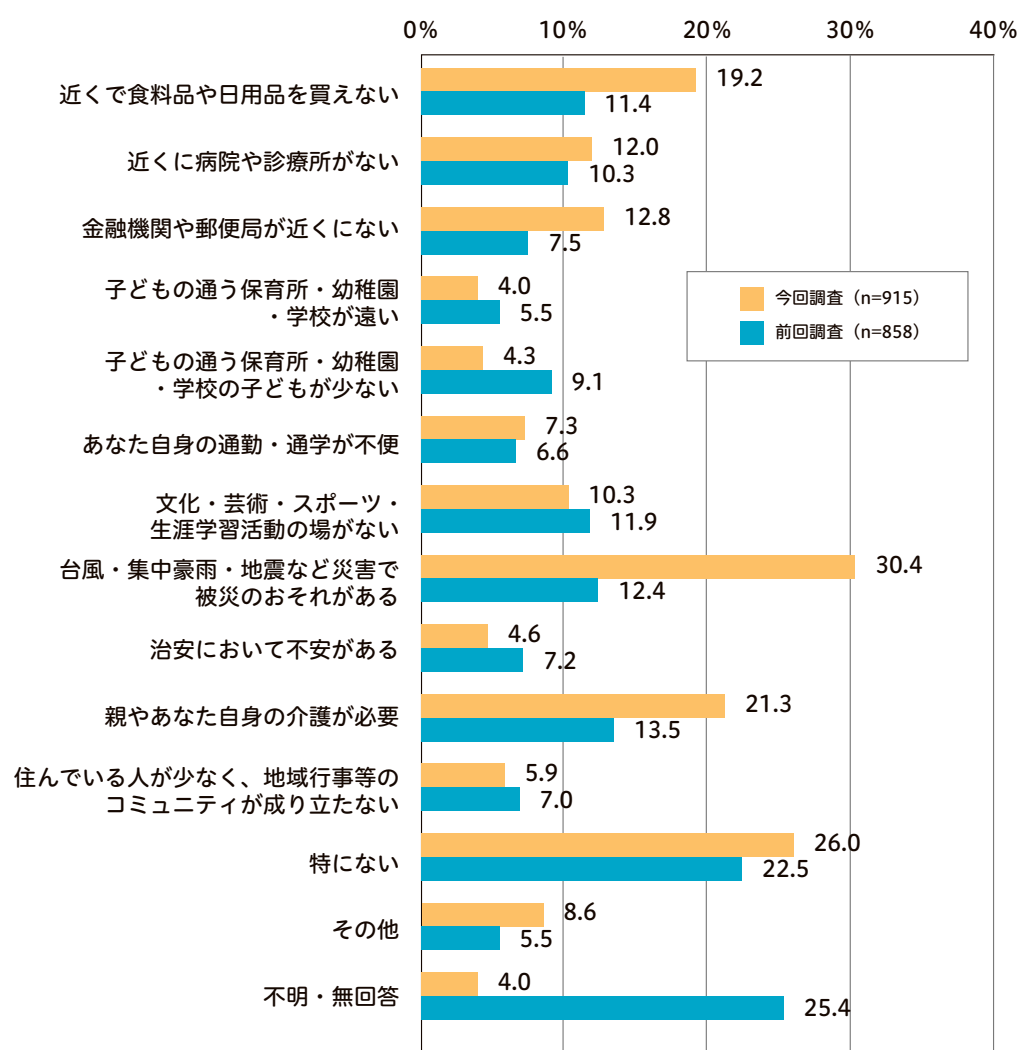
【その他回答】

- ・家があるから（4）
- ・持ち家のため（4）
- ・代々住んでいるから（4）
- ・魅力を感じない（4）
- ・久留米市中心部に近い（3）
- ・長年住んでいるから（3）
- ・生まれ育った場所だから（2）
- ・郷土愛（2）
- ・高齢だから（2）
- ・静か
- ・買い物するスーパー等が近い
- ・人間関係
- ・田畑があるから
- ・災害が少ない
- ・交通の便の良さ（車でどこへでも行きやすい）
- ・魅力ではないが、転出の可能性がない
- ・他に行くところがない
- ・ほど良く田舎で、ほど良く市街地
- ・他に行く勇気がない
- ・勤務先が近い
- ・親戚付き合い
- ・福岡や久留米に近い
- ・J R久留米・鳥栖に近い
- ・人間性が高い
- ・なんとなく
- ・自宅を建てた
- ・戸建の家があるから
- ・地価の安さ
- ・新たな建築不可
- ・祖父母宅のため
- ・町内バスの本数が少ないため、多くしてほしい
- ・バス、電車、病院など不便

■生活する上で、現在お困りのことや将来的に不安なことはありますか。
(○は3つまで)

お困りのことや将来的に不安なことについてみると、「台風・集中豪雨・地震など災害で被災のおそれがある」が30.4%と最も高く、次いで「特にない」が26.0%、「親やあなた自身の介護が必要」が21.3%となっています。

前回調査と比較すると、「近くで食料品や日用品を買えない」では7.8ポイント、「金融機関や郵便局が近くにない」では5.3ポイント、「台風・集中豪雨・地震など災害で被災のおそれがある」では18.0ポイント、「親やあなた自身の介護が必要」では7.8ポイント高くなっています。



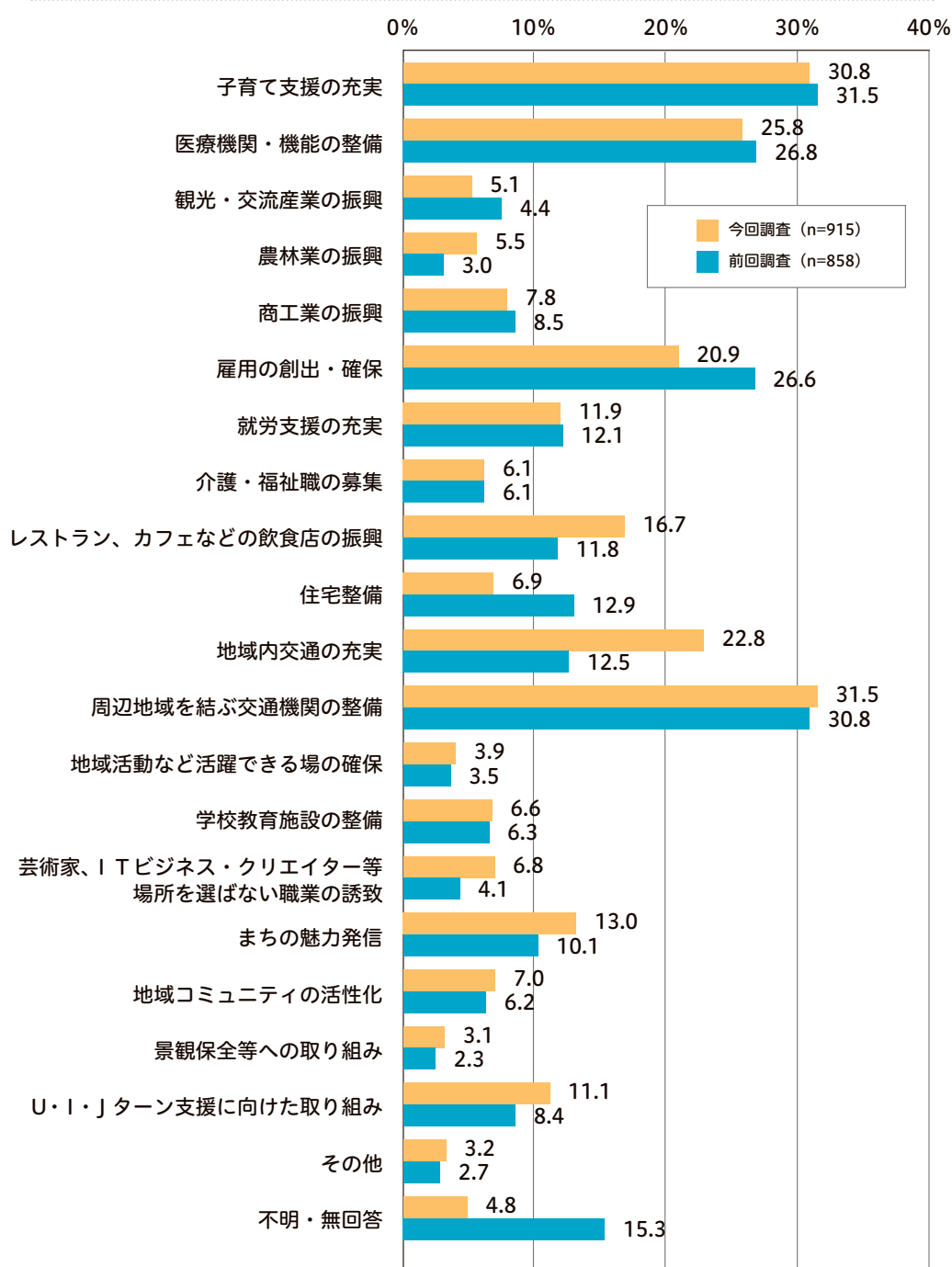
【その他回答】

- ・高齢になり車の運転免許証を返納した後の交通手段がなくなる (7)
- ・交通の便が不便 (6) ・車がないと不便 (5) ・バスの本数が少ない (5)
- ・老後は不安でしかない (3) ・外灯が少ない (3) ・高齢者が多い (2)
- ・デリバリーが不可なため不安。拡張してほしい (2)

■ 今後、移住・定住の促進を図る上で効果的だと思う取り組みにどのようなものがありますか。(○は3つまで)

移住・定住の促進を図る上で効果的だと思う取り組みについてみると、「周辺地域を結ぶ交通機関の整備」が31.5%と最も高く、次いで「子育て支援の充実」が30.8%、「医療機関・機能の整備」が25.8%となっています。

前回調査と比較すると、「雇用の創出・確保」では5.7ポイント、「住宅整備」では6.0ポイント低くなっています。また、「地域内交通の充実」では10.3ポイント高くなっています。

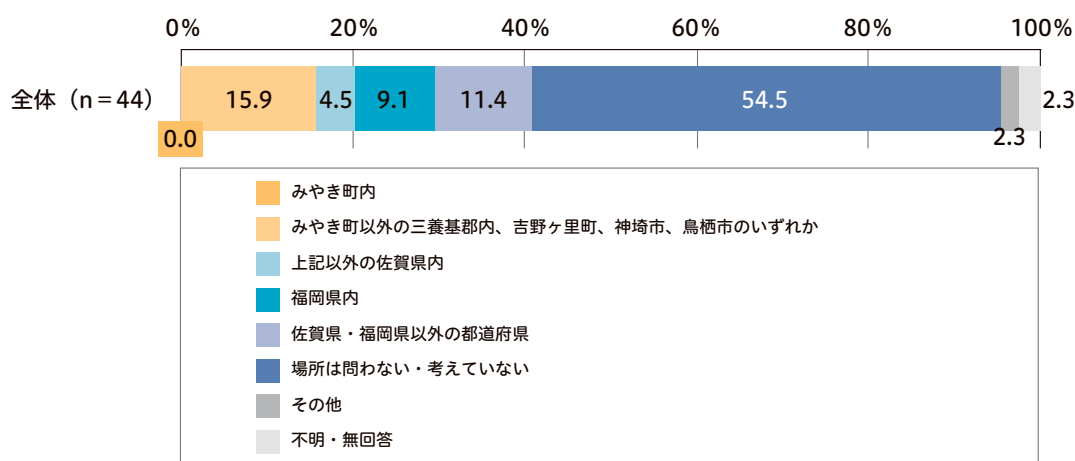


【その他回答】

- ・コミュニティバスの本数が増えると良い（３）
- ・自然災害に対する河川の整備など（用水路）（２）
- ・介護の充実 ・高齢者に対して何事にも支援を
- ・高齢者世帯へのボランティア・お手伝い（電球交換・木の剪定・ちょっとしたお手伝い）
- ・リフォームローンの設置 ・眼科がない
- ・元々町内に住む人が町内に家を建てる際に助成して、町外に出ないようにする
- ・本屋がない ・水族館の設立 ・道が広くなったら良い ・工業用地を誘致する
- ・働く場所。企業誘致 ・ショッピングモール等の複合施設誘致等
- ・災害に対して具体的な指導 ・アパートが少ない
- ・今までの区長が工事のやりすぎ ・促進よりも安定を望む ・温かい人
- ・不妊治療の助成 ・下水道整備
- ・武雄の図書館のように遊びに行きたいと思わせる施設を作れば、自然と人が集まり商業施設も周りに集まる
- ・嫁に娘が待機児童になりかけたと言われた。幼稚園やこども園の定員を増やして欲しい

■あなたは、どこで就職することを希望していますか（するつもりですか）。（１つに○）

就職希望地についてみると、「場所は問わない・考えていない」が54.5%と最も高く、次いで「みやき町以外の三養基郡内、吉野ヶ里町、神崎市、鳥栖市のいずれか」が15.9%、「佐賀県・福岡県以外の都道府県」が11.4%となっています。

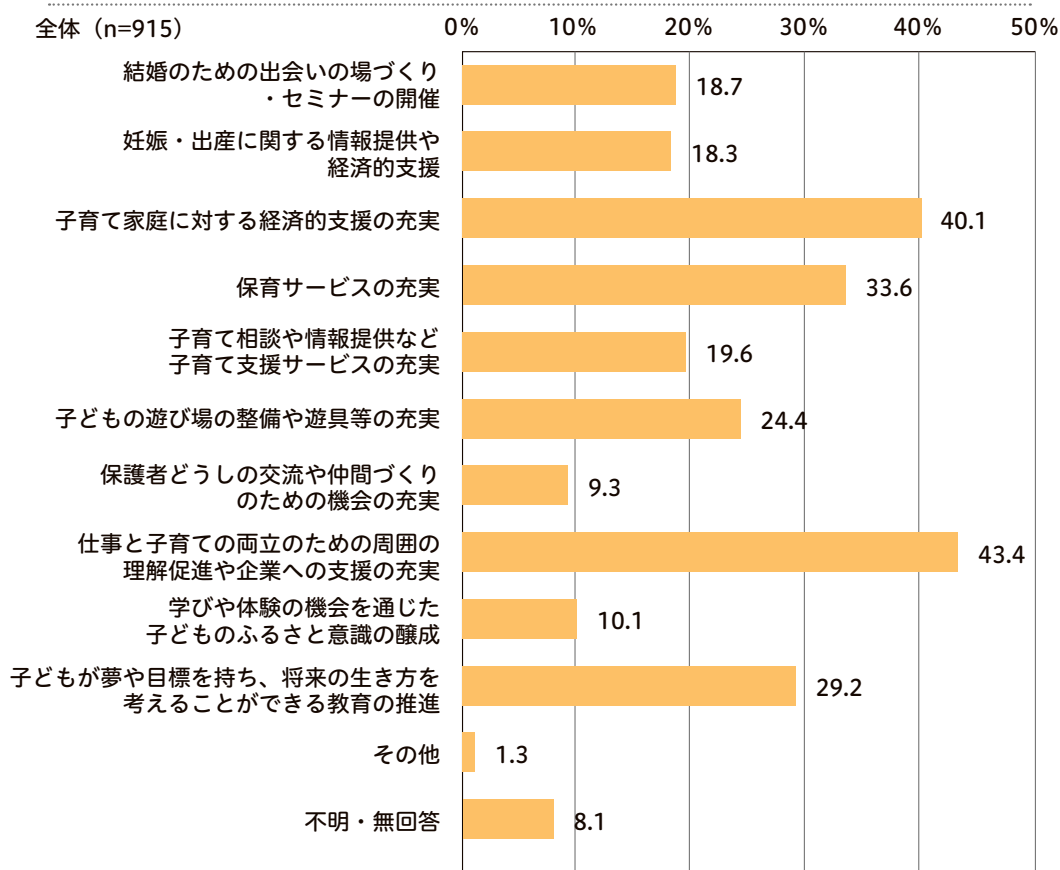


【その他回答】

- ・まだわからない
- ・就職中
- ・働かない

■あなたは、子どもを産み育てる環境を充実するためにはどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（○は3つまで）

子どもを産み育てる環境を充実するために力を入れるべきことについてみると、「仕事と子育ての両立のための周囲の理解促進や企業への支援の充実」が 43.4 %と最も高く、次いで「子育て家庭に対する経済的支援の充実」が 40.1 %、「保育サービスの充実」が 33.6 %となっています。

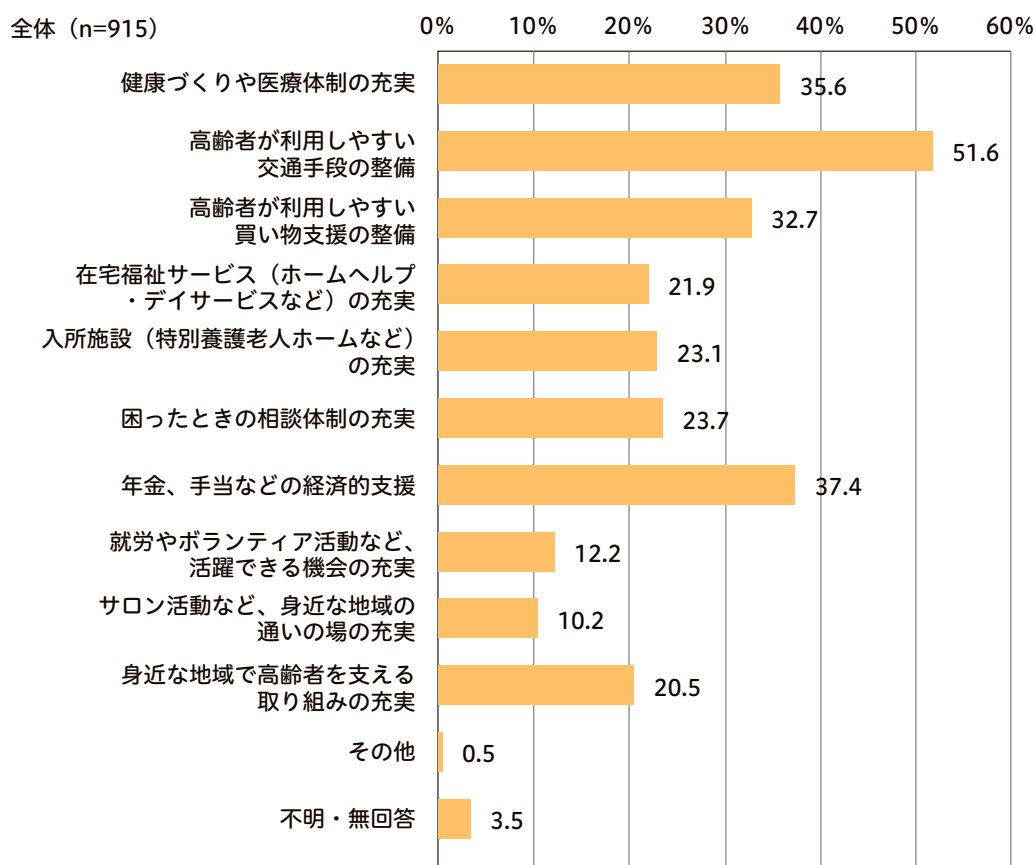


【その他回答】

- ・まずは町職員（男性）が育休を積極的に取得する環境づくりをする。役場から実践しないことには町をあげての有効的な子育て支援はできない
- ・不妊治療の回数撤廃（みやき町だけでも） ・産婦人科や小児科の充実
- ・産後の年月関係なく、母子が休まる入所施設の整備（ひとり親やワンオペ家庭の心身の負担軽減のため）
- ・子どもが大きくなっても引き続き支援を考えてほしい

■あなたは、高齢者が地域でいきいきと暮らし続けるためにはどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

高齢者が地域でいきいきと暮らし続けるために力を入れるべきことについてみると、「高齢者が利用しやすい交通手段の整備」が51.6%と最も高く、次いで「年金、手当などの経済的支援」が37.4%、「健康づくりや医療体制の充実」が35.6%となっています。

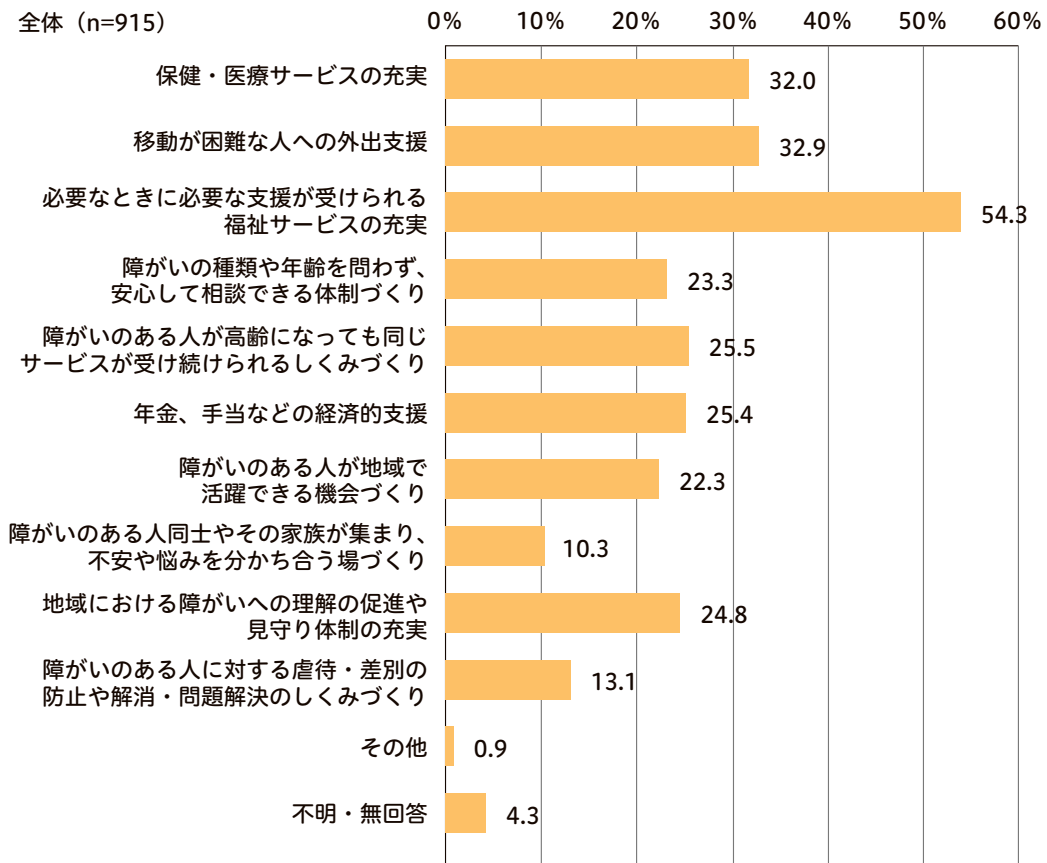


【その他回答】

- ・高齢者の労働環境をつくる（2）
- ・困っている方を早期に見つける。孤立や認知症等
- ・老人が気軽に行ける子どもの遊び場を整備する事で、子どもは身近な町の高齢者から学びを得て、子どもと触れ合う事で老人の寂しさや孤独から解放されると思う

■あなたは、障がいのある人が地域でいきいきと暮らし続けるためには
どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

障がいのある人が地域でいきいきと暮らし続けるために力を入れるべきことについてみると、「必要なときに必要な支援が受けられる福祉サービスの充実」が54.3%と最も高く、次いで「移動が困難な人への外出支援」が32.9%、「保健・医療サービスの充実」が32.0%となっています。

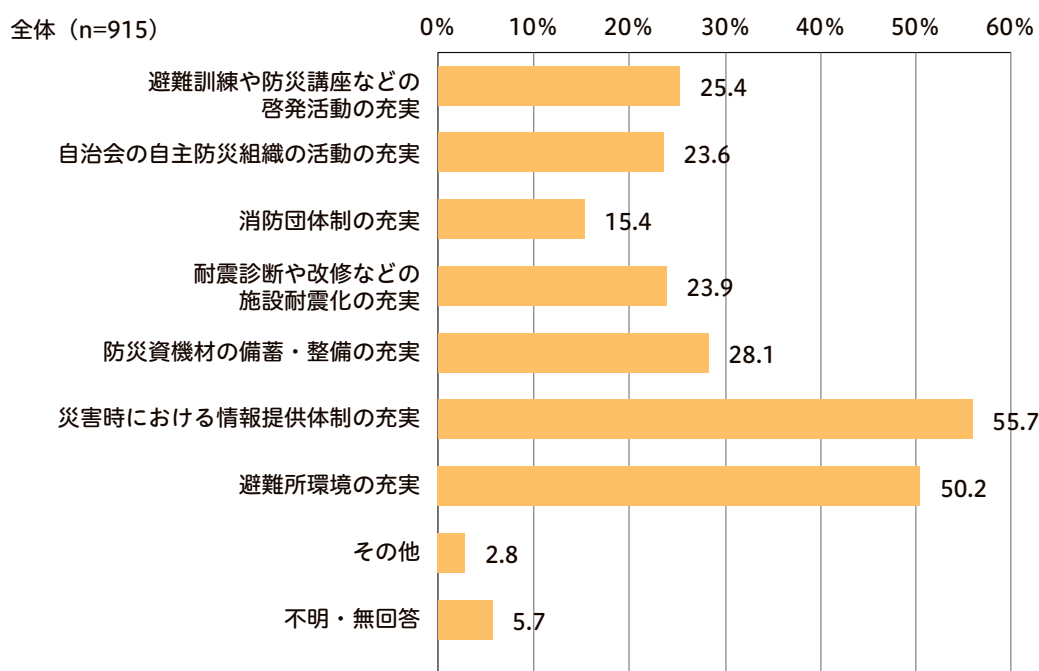


【その他回答】

- ・すべてだと思う (2) ・就労場所 (2)
- ・子どもの福祉施設がほとんどなく (児発や放課後デイ)、隣町まで連れて行かなくては いけなかった
- ・障がい者を特別扱いする事で健常者との見えない壁が生じている。子どもが小さいうち から障がい者と交流できる施設や場を提供したらどうだろうか。

■あなたは、防災に対する取り組みとして、どのようなことに力を入れるべきだと考えますか。(○は3つまで)

力を入れるべき防災に対する取り組みについてみると、「災害時における情報提供体制の充実」が55.7%と最も高く、次いで「避難所環境の充実」が50.2%、「防災資機材の備蓄・整備の充実」が28.1%となっています。



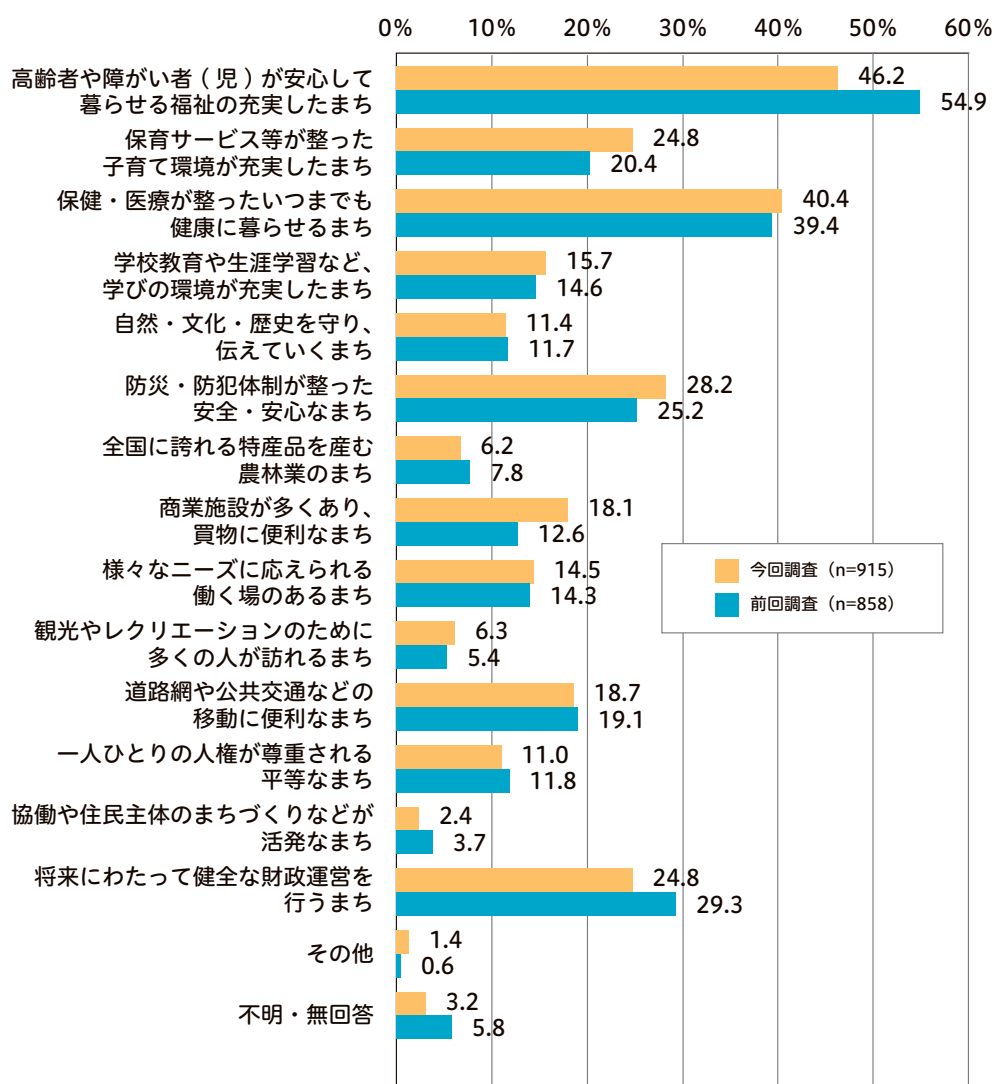
【その他回答】

- ・大雨が降った時の町内での浸水場所を知りたい (2)
- ・放送の音が聞こえないため、防災の一番はここから改善してほしい (要望する) (2)
- ・防災用の有線が聞こえない地域なので聞き取れるようにしてほしい
- ・江口地区の浸水対策 ・水害に対する防災工事、施設の整備
- ・私が住んでいる場所は、すぐに川が氾濫して外に出ることができなくなる。水を地域から吐き出すポンプの整備を行ってほしい
- ・豪雨に備えた水路等 (水はけ) の整備。沈むところに住宅や重要施設を建てない
- ・治水 ・空き家の活用と整備 ・河川の整備と強化
- ・8月の避難所が改善センターからコミュニティに変わって、三根校区からは大変。学校はだめなのか?
- ・避難場所は防災センターばかりではなく、住居の近くにも設定すべきだと思う
- ・避難場の見直し ・食材等の配給所
- ・安全な場所に集会所があれば、そこを避難所にしたら良いと思う
- ・身体障がい、精神・発達障がいの方も使いやすい設備、環境、備品。乳幼児への支援
- ・高齢者、単身世帯等、防災弱者へのフォロー体制
- ・高齢者の避難所への移動支援 ・避難の方法 (車、徒歩)。ペットとの避難
- ・なかなかそこへ行って参加できないので、地区でできる場所

■あなたは、みやき町が将来どのようなまちになってほしいと思いますか。
(○は3つまで)

みやき町が将来どのようなまちになってほしいかについてみると、「高齢者や障がい者（児）が安心して暮らせる福祉の充実したまち」が46.2%と最も高く、次いで「保健・医療が整ったいつまでも健康に暮らせるまち」が40.4%、「防災・防犯体制が整った安全・安心なまち」が28.2%となっています。

前回調査と比較すると、「高齢者や障がい者（児）が安心して暮らせる福祉の充実したまち」は8.7ポイント低く、「商業施設が多くあり、買物に便利なまち」は5.5ポイント高くなっています。



ワークショップの結果

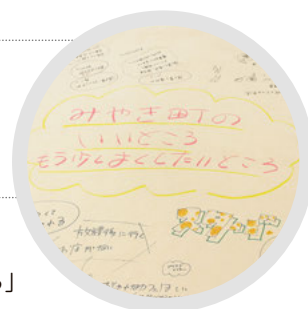
1. 高校生ワークショップ

(1) ワークショップの目的

「第三次みやき町総合計画」を高校生に知ってもらい、自分の住む又は通うまちの課題や将来像について考えるきっかけを提供することで、若者のまちづくりへの関心を高め、まちづくりに参画する主体的な若者の増加を図る。さらに、若者の視点から見た“みやき町”へのニーズを把握し、優れたアイデアや意見を具体的な施策に反映する機会とする。

(2) ワークショップのテーマ

みんなでつくろう理想のみやき町



(3) 開催日程

- 【第1回】 テーマ：みやき町の「いいところ」「よくしたいところ」

開催時期：令和3年11月9日（火） 参加人数：28人

- 【第2回】 テーマ：みやき町を今よりもっとよくするための「プロジェクト」の検討

開催時期：令和3年11月12日（金） 参加人数：30人

開催場所：養基会館2階（三養基高校敷地内の同窓会館）

1. みやき町の“いいところ”“もう少しよくしたいところ”

“いいところ”

- 自然が豊か、自然環境が良い
- ちょうどよい田舎で住みやすい
- 子どもの医療費500円、給食費無料等の子育て支援の充実、制度の多さ
- 通学支援バスが便利
- 給食がおいしい

“もう少しよくしたいところ”

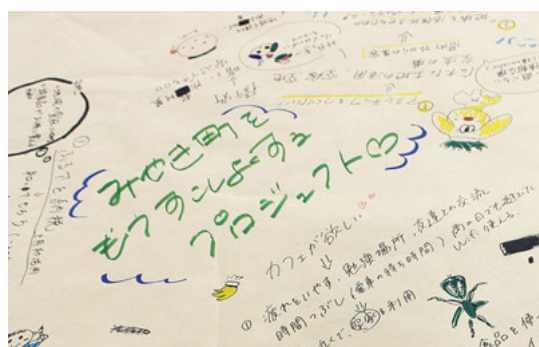
- 中原駅の改善（バリアフリー化、商業施設の充実など利便性向上）
- 歩道が狭く、街灯が少ない
- 遊び場が少ない、飲食店等商業施設の充実

2. みやき町、どんなまちなら住みたい？

どんなまちなら帰ってきたい？

- 子育て支援が充実してる【意見多数】
- 自然を生かした発展をしてほしい、自然はなくさず【意見多数】
- 交通の便がよくて、住みやすい。【意見多数】
- 家から仕事にいける（交通の便がいい）、働く場がある【意見多数】
- 服を買いやすい場所、飲食店、カフェなど遊べるところがたくさんあって退屈しない
若い人が行き交う活気のあるまち【意見多数】
- 昔からのイメージを保ちつつ進化したみやき町
- 地域の方との交流が多い、人柄がよく、あいさつが温かい
- 安心して暮らせる
- “みやき町ならではの”の映えスポット
- 若い人もそうでない人も、日本人や海外の人もどんな人でも楽しくすごせる町
- いいところはそのまま継続していき、できる範囲からよくしてほしい所を改善してほしい

3. みやき町を今よりもっとよくするための「プロジェクト」			
概要	プロジェクト名	プロジェクトの内容、解説	みやき町の課題
空き家活用	空き家を 活用しよう !!	空き家を改装して、若者が来たくするようなカフェや洋服店をつくる ・学生…SNS で積極的に広める ・地域…回覧板やチラシで情報発信 ・行政…人材・場所を探す ～カフェの内容～ ・みやき町の特産品をつかったメニュー ・地域の人が作った小物などを売るスペースがある	・空き家を活用して皆が求める場所をつくる ・のんびりすごせる居場所
道路環境	道を広く、 平らに してほしい !!	・道路がガタガタだと、自転車や歩行者の人が危ないため…→町にお願いして、道路の拡張工事や補装をしてもらう ・地域の学生が登下校中に気になる場所やもう少し、よくしてほしいところをあげる	・歩行者や自転車の人が安心して通行できるような道路にする ・交通事故を防ぐためにも、道路を少しでも広くできるように工事してもらう
産業 空き家 活用等	みやき オリジナル カフェ	車の通りが多い所や、駅近かな所（電車待ちをつぶす）の空き家につくり、住民による食材提供、メニュー考案を行い、みやきの特産品も使用。勉強、子どもの遊ぶスペース（カラオケ、シアタールーム、映えスポット、ネット環境）を設ける。夜はオシャレな居酒屋（老若男女）。ドライブスルーやテイクアウト、イルミネーション自然とアットホームをコンセプトにしたカフェ	・暗い ・つまらない ・車の通りまあい ・電車の待ち時間 ・空き家多い
中原駅の 改修	“みやき”の ヤルキ、 ひとがんばり !!	・駅の 2F をつくる（2F に商業施設：ジョイフル、マック、コンビニなど） ①みやき町は夕陽がきれいなので、西側は窓ガラスで !! ②レトロな感じにすれば、もっと人集まるかも	・駅がしょぼい ・映えスポットがほしい ・商業施設を増やす



2. 住民ワークショップ

(1) ワークショップの目的

住民のまちづくりへの関心を高め、住民の視点から見た“みやき町”へのニーズを把握し、優れたアイデアや意見を計画に反映する機会とする。

(2) ワークショップのテーマ

みやき町が『さらに住みやすいまち』になるために大切なこと



(3) 開催日程

- 開催時期：令和3年11月23日（火・祝）
- 開催場所・参加人数：
 - ①北茂安校区（メディカルコミュニティセンター2階 プレゼンテーションルーム）
男性13人、女性10人、計23人
 - ②三根校区（農村環境改善センター 研修室（和室））
男性4人、女性18人、計22人
 - ③中原校区（働く婦人の家 軽運動室）
男性16人、女性4人、計20人
- 参加者合計 男性33人、女性32人、計65人

1. みやき町の“いいところ” “もう少しよくしたいところ”

“いいところ”

- 自然が豊か、自然環境が良い
- ちょうどよい田舎で住みやすい
- 子どもの医療費500円、給食費無料等の子育て支援の充実、制度の多さ
- 歴史文化
- 中原、三根、北茂安の三町の自然のすばらしさ、特色

“もう少しよくしたいところ”

- 中原駅の改善（バリアフリー化、商業施設の充実など利便性向上）
- 交通の便（コミュニティバスの路線、運行本数改善）
- 渋滞対策、スマートインターの設置等の道路環境
- 空き家対策

2. みやき町が『さらに住みやすいまち』になるために大切なこと

① 北茂安校区

【まちづくり全般】

- 若者が住みたいまち、若者向けの取り組み【意見多数】
- 産前産後、子育てしやすい町の継続、そして住みやすい町へ
- 体験、消費、遊び、習い事、企業務致、雇用創出など住んでもよし、働いてもよし、遊んでもよしの町づくりを目指す
- 「緑」「共生」
- 年長いても優しいまち…お買い物（移動販売・買い物代行・家事代行など）。駅階段整備
健康寿命を延ばすために、各公民館で趣味のサークル（無料～ワンコインくらいで）
- 空家や畑であたらしい取り組み（店舗やサークル）

【農業、産業】

- 企業の誘致、働く場所も必要【意見多数】
- 観光農園作りや利益の出る農業の開発・販売

- 川や海、大地が健康になるまちづくり
- 自然や豊かな農業・農産物を軸とした観光業に力をいれる
- 歴史（白石焼など）文化（そば作りなど）などの発信

【交通】

- せっかくの高速バスが使いづらい（駐車場が不便）
- デマンド交通を取り入れる

【人づくり・地域コミュニティ】

- 人材発掘、町民の活動を調査してマップ等をつくる
- 文化活動を応援して「生きがい」「仲間づくり」を進める
- 定年者の活用

【行政運営について】

- 行政職員のスキルアップ
- 住民の考えを多く広く聞くこと、今回のワークショップのような機会をつくる【意見多数】
- お金をばらまかない（予算ありき）

② 三根校区

【まちづくり全般】

- 将来を支える若者や子育て世代に対して住みやすい環境【意見多数】
- 高齢者が住みやすい町
- 自然を残しながら、高齢者と若者が暮らせる町
- 三世代が楽しく笑ってくらせる町

【農業、産業】

- アルバイト含めた働く場、企業の誘致【意見多数】
- 若者が行くような店を増やす
- 障がい者がはたらきやすい場所

【交通】

- 買い物するお店がエリアに集中しているので、車に乗れなくなってからが不安【意見多数】
- 若者、高齢者の移動手段として、コミュニティバス、デマンドタクシーの整備
- 移動販売

【人づくり・地域コミュニティ】

- 年配の方と若い方と交流ができること【意見多数】
- 各区にも一度位こういう話し合いが必要
- みやき町民の実際の生活や困り事を吸い上げて改善するぞ、という人材も必要

【行政運営について】

- 若者が町政に目をむけること
- 町民の悩みを真剣に聞いてもらいたい
- お金の流れなど透明性の確保

③ 中原校区

【まちづくり全般】

- 高齢者も若者も暮らしやすい町【意見多数】
- 自然を残しつつ（守りつつ）、町の開発を行っていく【意見多数】
- 母親をターゲットに据えた町づくり。
- 障がいのある人との交流、ボランティアを通した教育
- 発達障がい者のための放課後等デイサービスがあればよい
（今は中原特別支援学校の中に少数の人が利用できるだけ）
- 最近崖くずれ等自然災害が見られる、ハザードマップの充実
- 町の歴史を次世代に伝えたい。民俗資料館の開設
- 健康寿命を延ばすために水辺開発で遊歩道・サイクリングロードなど整備
- 寒水川の遊歩道をつなげてきれいにしたい

【農業、産業】

- 働く場、企業の誘致
- 駅改善。周辺に図書館、カフェ、ショッピング施設
- 高齢化して、集約施設では利用できない。交通弱者が増加している
- 安心して住める町農業の充実
- これからの食糧難に備え食糧自給率を上げる。農業を大切にする

【交通】

- 道路の整備（子どもたちの安全のためにも優先的に）
- 基幹道路（片側2車線以上）を南北に通す（北にスマートインター、南は天建寺橋まで）
（福岡の大川、柳川に通ずる）
- 企業誘致のためのスマートインター整備

【人づくり・地域コミュニティ】

- 年齢に応じた目的意識をもつ→定年後の生きがいを「みやき町」でみつける
- 老人が自由に過ごせる場所があれば良い

【行政運営について】

- 女性議員を増やして欲しい
- 総合計画の進捗状況の管理
- 住民の声を反映させる仕組みづくりが必要



団体ヒアリングの結果

1. 調査の目的

総合計画策定にあたり、各分野における課題の把握とまちづくりの方向性を定めるために、関係する団体へのヒアリングを行った。なお、調査の方法は、対面によるグループインタビュー形式。

2. 調査対象

- NPO 法人 佐賀県 CSO 推進機構
- みやき町体育協会
- みやき町伝統文化保存協会
- NPO 法人 山田の風
- みやき町観光協会
- みやき町母子保健推進員
- 三養基郡PTA連絡協議会
- みやき町子ども応援隊
- マルシェ主催団体「スロウタイム」
- 一般社団法人 らしく
- みやき町消防団
- 防災士
- 一般社団法人 佐賀県宅地建物取引業協会
- みやき町地域おこし協力隊
- 一般社団法人 地域資源活用推進協会
- 山田のひまわり園

3. 実施日・実施場所

令和4年4月27日(水) みやき町庁舎1階防災会議室

施策分野	健康づくり
ヒアリング対象	NPO 法人 佐賀県CSO推進機構
ヒアリング内容	【健康づくりの現状】 ●健康教室を13年行っている。今年の4月で14年。平日昼間に56地区を回って、教室を行っていた。しかし、コロナの影響で実施ができない。それにより高齢者が外に出られなくなった。 ●それに対して、動画の作成等を活用しつつ行っているが、高齢者にとっては機械を扱うことは難しい状況。そうしたこともあり、健康については、二次被害が出ている。 ●現役世代は年齢が上がっている。60歳から引退ではなく、再雇用の状況のため、働く期間が延びている。そうした人は、体を動かす時間が取れない。SNS等の活用で周知を考えているが、なかなかできていない。 ●メディカルコミュニティセンターも昨年6月に完成したが、平日は利用者が少ない。土日はマルシェを行っているが、若い世代の利用も進めていく必要があると感じている。 ●町としては、目標を達成しているが、スタッフからするとまだまだ集客は足りていないという実感がある。 ●健康づくりのアイデアとしては、ノルディック・ウォーキングを行うようにしたい。コロナ禍においても屋外で、手軽にできるスポーツだと思う。車などを気にせず、ウォーキングを行う環境ができればよいと思う。 ●公共施設やグラウンドの外周など、気軽にウォーキングを楽しめる場所が各地域にあれば、利用していただけるのではないかと。そうした施設があれば、よいと思うし、今ある施設に少し工夫を加えれば可能ではないか。 ●コロナで教室ができない。感染対策を行うことは問題ないが、近隣の市町に比べるとみやき町の基準が厳しい。そのため施設が借りられない。厳しすぎてなにもできなくなるのもどうかと思うので、予防対策を行ったうえで、適切な基準を設けてもらいたい。 ●高齢者の孤立については、独りにしないということも入っているので、どうか外に出て人と接してもらう必要がある。また、それによってフレイルの予防となっており、とても大事だ。 ●高齢者に対しての教室ができないということで、SNSとかで配信しているが、使えないから見ない方が多い。テレビだったら電源を入れれば映る。簡単な操作であれば、見てもらえるのではないかと。そういうのがあればもっとスポーツだけではなくていろんな情報発信ができるのではないかと。
施策分野	スポーツ・文化
ヒアリング対象	みやき町体育協会 みやき町伝統文化保存協会
ヒアリング内容	【スポーツ活動の現状】 ●体育協会には、16競技団体あり、1,300人が登録している。講習会、試合が46ほどあったが、コロナの影響で28事業ほどの実施にとどまる。そうなっているのが、気になっているところ。 ●コロナ禍で県民スポーツ大会がなかった。 ●近隣自治体に比べて県民スポーツ大会にできる予算がみやき町は少ないと感じる。 【文化保存活動の現状】 ●浮立については、9つ保存会がある。皆さんの関心も高い。 ●コロナで祭りが開催できていないので、今年は頑張ってやらないといけない。少しでも浮立を打ってもらうことが大事だと思う。 ●現状では子どもの代わりに親が出るなどしているところもある。子どもが少なくなっている。それが続くと終わってしまう。終わったものを復活させるのは困難だ。やめさせ

	ることだけは避けたい。 ●元々は五穀豊穡の祈願祭で地区のためのものだったが、今は観光メインとなってきた。また、人とのつながりの意味合いも強い。 ●綾部の浮立は総会で、今年は必ずやろうという話があった。綾部は保存会があり、年一行っている。綾部は組織が大きい。他は3年に一回の持ち回りのとなっている。保存会のないところもある。資料から、引継ぎから大変な状況。 ●コミュニティや人のつながりを作るには祭りが必要。顔見知りになり、つながりができてくる。なにか行事があり声かけすると、人が集まってくる。そのコミュニティという人の繋がりをつくるには、声をかけるのは必要だし、全然知らない人がいっぱいいても一緒に祭りに向かっていくと知り合いになる、顔見知りになる。そういう形で繋がりができるから、大切にしていかなければいけないと思っている。 転入者への声掛け、小学校で浮立鐘をたたくなど取り組みをしていかなければいけない。 ●担当になったとしても苦にならず、続けていけるようにしておきたい。そうした体制作りが必要だと思う。 ●祭りには意外とお金がかかる。継続のためにはそうした支援も必要。
施策分野	景観・歴史
ヒアリング対象	NPO 法人 山田の風 みやき町観光協会
ヒアリング内容	【景観保護活動の現状】 ●課題としては、景観計画を作ると今後条例を作らないといけない。実行する条例、法的な根拠ができていない。景観基準、景観配慮のためのルールを作りたい。観光地ではないので、誰もが協力できるような緩やかなものとするのが大切ではないか。町民の協力を得るために、シンポジウムを考えていたが、それができなかった。その代わりに、フットパスマップを作っている。 ●景観については企画調整課だけでやってきたが、農業経営、河川とも連絡調整していかないといけない。今後目標を共有して取り組んでいく必要がある。役場スタッフを育てながら連携をしていかないといけない。また、議員にも推進していく方を作っていく必要がある。 ●みやき町は、便利がよい。大都市の郊外のベッドタウンには特徴がないが、みやき町をそのようにしたくない。文化があり、自然があり、住む魅力にあふれたふるさとを感じられるようにしたい。 ●台地丘陵があり、また平地があって、クリークがあってという景観は特徴的となっている。それらは、ものすごくよいとはいえるものではないのだけれど、地域の人にとっては大事なものだ。それらをパスなどでつなげていくと味わい深くなると思う。 ●重要景観公共施設という制度がある。指定をして、それに対して集中的に整理をしていくという制度がある。例えば、県道 22 号線、豆津橋からみやき町に入り、千栗土居、メディカルコミュニティセンターなどの施設が集積しているので、景観重要公共施設を整備して、ちょっとしたデザイン基準を作って、道路施設のデザインを変えるなどすることもよいと思う。また、サイン計画を作り、デザインを統一すると、景観行政に取り組んでいることをアピールできる。 【歴史継承活動の現状】 ●歴史・観光・文化はつながっている。観光資源はたくさんあって、原石を磨くのは人間である。地域の方にお知らせしていく必要がある。 ●教育の分野で、成富兵庫茂安公は語り継がれていると思う。 ●考古学に興味のある人にとっては、みやき町はとても魅力的となっている。継承できていないのがちょっと残念だと感じている。 ●歴史の検証ということも重要。検証がしっかりしていれば、継続されていくと思う。広報誌で、偉人伝に関してコメントがあったが、よいものだったと思った。そうしたものを学校の先生が子どもたちに説明すると、興味を持つと思う。

	●フットパスのコースと歴史を辿りながらノルディックで回るということも考えられる。近隣自治体ではやっている。歴史と文化と健康の面を何か総合的にまとめて、子どもから高齢者の方々までがみんなで利用できるようなものが、できたらすごくいいと思う。 ●景観という視点は、総合的な視点なので、そういう景観まち歩きみたいなことや自然もあるし歴史といった視点を包含し、いろんな分野と繋がる。 ●歴史講座は充実している。観光教育についても力を入れていかないといけない。
施策分野	子育て支援
ヒアリング対象	みやき町母子保健推進員 三養基郡PTA連絡協議会
ヒアリング内容	【学校教育について】 ●先生を学校の中で増やすことができないのか。先生の働き方改革、子どもたちに接する時間が少なくなっているのではないかと感じる。 ●働き方が、この1年、2年で変わってきた。昔は先生の努力で賄ってきたと思う。現状、先生の手が足りていないのではないかと感じる。先生たちも多様化によって忙しくなっているのではないかと感じる。 【子育て支援の現状・課題】 ●赤ちゃん訪問を行っているが、「母子保健推進委員」という名前がどうかと思う。お母さんと子どもが一緒というのが当たり前となっていて、みんなで、地域で育てていくにあたって母子という名前はそぐわないと感じる。ファミリーサポートについて同じように感じる。母親にプレッシャーがかかりすぎていると思う。そうした親に対してどう支援していくかが大切ではないかと思う。 ●周りの親たちがカツカツだといけない、親がどれだけ余裕が持てるかが重要。 ●地域で子育てというけれども、親、地域の思いのベクトルがそれぞればらばらになっていないだろうか。 ●個人的な感想だが、やはり子育てのまちということで、行政からサポートも多く、進んだ地域だという印象はある。ある程度サポートは手厚くされていると感じる。あとは親の意識の問題であったり、本当に細かいところまで手が届いているかが問題だと思う。 ●私も、この町で育って自分の子育てをし、その中でもどんどん変わっていつている。多様性ということもあって、ニーズも幅広く、浅くなってきている気もする。1個これがありますというだけでは、厳しいところもある。多様なニーズに応えられるかどうか。 ●子どものことについて、担当者が変わると一から説明する必要がある、保護者にとっては非常に億劫。切れ目のない支援が必要だと感じる。 ●親たちができないことは、地域で見守ることができればと感じる。昔は原古賀では地域で竹とんぼづくりをしていた。ゲートボールを地域の方とやって負けても勝ってもお菓子をもらえた。自然につながり、交流ができていた。 ●転入者が多い中、孤立している転入者は、わからない。目に見えている孤立は真の意味での孤立ではない。乳児検診は親子同士での交流ある親子、家はみやきだけど、職場はみやき外のお母さんがおり、ニーズ、ライフスタイルが多様化している。乳児訪問をしても、悩みは今と昔であまり変わらないと思う。

施策分野	地域間・世代間、コミュニティ
ヒアリング対象	みやき町子ども応援隊 マルシェ主催団体「スロウタイム」
ヒアリング内容	【世代間交流について】 ●課題についてはコロナ禍での子どもの虐待が増えている。 ●地域での交流ができていない状況。「子育てするならみやき町」とキャッチフレーズを掲げているが、個人的にはそこから見えてくるものがないと感じている。実態が見えてこないし、政策が見えてこない。 ●障がい者に対する相談先窓口が見当たらない、わからない方が多い。メディカルコミュニティセンターにも地域包括支援センターが入っているが、どこに相談すればよいのか。 【コミュニティについて】 ●コロナ禍、また働き方ということもあって、コミュニティのつながりも希薄化しているのではないか。 ●以前はどのようにつながっていたのかということを考えると、祭り、子ども会のイベント、ちょっとした集まりがあり、小さな集団でも小さな居場所づくりがあった。 ●そうしたイベント等があっても出てこない人は出てこないだろうけど、小さな居場所が小さい単位であってもよいのかと思う。第3の居場所が有ったらつながりができるのかなと思う。 ●また、中高生は居場所がないことで一番困っているのではないか。中原庁舎にはあるけれども、数は足りてないと思う。使っていないときに、解放するなどやってもよいのではないか。 ●以前はちいさな集まりのなかで、悪いことをだめだと教わり、社会を学んだと思う。今、そうしたところがなくなっている。 ●居場所づくりの拠点としては、空き家が最適だと思う。 ●以前は集落に青年部があり、集団を形成していた。そうしたことは社会において大切なことだ。そうしたことがなくなってしまった。 ●共働きの時代になって、子どもが一人で家にいるようになった。そうでなければ、学童に行く。それから外れた子達には、居場所がない。 ●公園がゲートボールする場となり、子どもが追い出された。公園もあるけれども死角があり危険だったりする。 ●現在、公民館が活用されていない。公民館を有効に活用するべきではないか。 ●障がいを持つ親から、子どものことについてどこにいったらよいかとよく聞かれる。この点は、PRが必要だと感じている。また、相談にいても1, 2回で終わってしまう。あとが続かないということも聞いたりする。 ●近隣自治体は、空き家の活用について動きが早いと聞いている。空き家については、片付けが大変だが、それについてはシルバー人材センターに頼む、地域の支え合い作り協議会、ボランティアに頼むなど、いろんな解決方法がある。問題を放置すると、解決へと進まない。

施策分野	多様性
ヒアリング対象	一般社団法人 らしく
ヒアリング内容	【地域共生社会について】 ●どうやったら稼げるかを考えていく必要がある。簡単すぎる内職、作業だと健常者が仕事を取ってしまう。それならばと自分たちで仕事を作って稼ぐようにしている。反省点も踏まえ、成立できるように他の会社と連携して、他の作業所にも仕事が増やせるようにしたい。 ●佐賀県の東側は精神科病院が多い。働く場があるかもしれないが、グループホームで居住する場がないのが現状となっている。 ●障がいを持っている親御さんにたまにあるのが、何かパーフェクトベビー願望というか、完璧であって欲しいという気持ちをもってしまう。障がいを持って育ててきた分、その後パーフェクトになってほしいと願望を持つ親御さんが少なからずいる。障がい者の働くところではなくて、自分の子どもは一般企業に就職できると強く思われる方もいる。 ●ただ、どうしても支援が必要であったりする子たちは多いので、そこを一般企業に入れ込むことで支援がなくなってしまうこともある。一般企業になると福祉的支援ができない。 ●障がい者の世間の受け入れの部分っていうのがどうしても差別的に見えている部分があって、そこに自分たちの子どもを入れたくないっていうことを、僕らでも感じている。障がい者の受け入れ側の部分の知識、個性の部分は受け入れられていると思うが、まだ社会全体で隠しておけという風潮がある。 ●相談支援事業所というのがない。中原特別支援学校があり、そこに子どもは集中しているが、卒業した後の相談先がない。それを、結局、鳥栖や久留米にたよっているということがある。社会資源の活用がうまくできていないのではないかと感じる。相談員の人は、担当の自治体のことはわかるが、違う自治体のことはわからない。町内のことを分かる人が相談を受けたほうがよい。 ●企業が障がい者支援の事業所に仕事を振ってみたいと考えても、佐賀県に登録しないと行けない。そうなので、直接仕事を下せない。そうした受注窓口があってもよいのかと思う。 ●障がい者に限らず、シルバー人材センターに対しても、同じようなことがあってもよいと思う。お母さんたちでも、この時間に働けるということもあるので、そうしたマッチングなどできるのではないかな。
施策分野	防災・防犯、安全・安心
ヒアリング対象	みやき町消防団 防災士資格保有
ヒアリング内容	【消防団の現状、課題】 ●全体的に団体構成はサラリーマンが多くなり、団員数も悪化し、地元に住居する人が少なくなっている。平日に出る人も少なくなっている。 ●対応では、火災より水害が多くなっている。これだけ水害、内水氾濫が発生すると、消防団だけでは対応できなくなっている。また、冠水の方に手を取られて、本来の人命救助、逃げ遅れた人の救助ができない。冠水への対策が必要だと思う。 ●火事については、そこまで多くない。大きな火災はこの数年で、何件かくらいだ。 ●人口減少地区では団員が少なくなっている。隣の区と協力している。人のいるところは団員を辞められるが、人のいないところでは辞められなくなっている。 ●人数的には対応できる数はいるが、大雨の際に対応できるかどうかという状況にある。 ●冠水については道路管理者が対処する必要がある。 ●結局、筑後川に落とすポンプ場が大きくなってもらわないと、内水氾濫は収まらないと思う。

	【防災に関して】 ●防災士の資格をもっているが、資格を活用する場がないので、活用できる機会があればよいと感じる。 ●自助、共助力の知識を教える環境、学べる環境があればよい。災害になったときに役立つこともあると考える。震災、災害に対して冷静に対応できるような、知識、経験があれば対応できると思う。行政、消防の公助は救助までに時間がかかる。そうした知識等があれば、それまでに対処でき、対応のあり方が変わってくるのではないかなと思う。 ●資格を持っている防災士同士のネットワークがあればよいと思う。しかし、資格をもっているが、何をしたらよいかわからない。持っているだけになっている。 ●例えば、防災士会というのを作って、消防団のイベントに参加してもらうなどをすると、みんなの認識が深まるのではないかな。例えばみやき町のYouTubeチャンネルみたいな作って、防災の知識をYouTubeで発信するみたいなのがあればよいのかなと思う。 ●平常時の他の組織との連携は必要だと思う。何かあったときに、どうしたらよいかわからないということがあるので、平常時の取り組みが重要だと思う。が重要だと思う。 【これからの防災活動について】 ●この庁舎は、防災センターとなっているが、コロナのため総合的な訓練はできていない状況にある。地域密着型で、関係団体が集まって避難訓練を行うことなどをすれば、地域住民の意識もかわってくるのではないかなと思う。コロナが治まって、地域での訓練ができるようになればと思う。 ●参加しやすい防災イベント、さまざまな防災の知識が学べるイベントが開催できるとよい。
施策分野	産業
ヒアリング対象	一般社団法人 佐賀県宅地建物取引業協会
ヒアリング内容	【産業の現状・課題】 ●分譲開発がされている一方で空き家もある。業者として考えないといけないのは、どこでも分譲をしてはいけないということだ。分譲、町営住宅が立て続けに立っている。しっかり調査して本当に安心安全な暮らしが守られる場所に許可をだすべき。簡単に建設の許可を出してはいけない。 ●まちづくりに興味があり、外国のまちも見てきた。外国の美しいまちづくりは、商業地域、居住地域、農村地域と土地利用ゾーニングをしている。そして地産地消を行っている。そのようなまちを造って欲しい。 ●防災についても常日頃防災を意識した暮らし方を推進することが必要だと思う。 ●中学生相手にセミナーすることもあるが、モノを大切にすることを伝えている。ゴミを減らせることができれば地球環境が良くなるし、それがひいては、温暖化防止に繋がったりしていく。身近なところから、SDGsを意識させることが大事。 ●空き家ももうちょっと何か活かせないかなと思う。空き家をうまく活用して、家をリニューアルして、住みやすい街だよといったことになれば、みやき町に人がやってくるのかなと思う。 ●産業については、自然豊かで農業が盛んな町なので、そういう素材を活かして防災食とか宇宙食みたいなものを開発できないかなと思う。 ●適切な都市計画を行って欲しい。まだらに開発されている。水害地域は分譲開発しないほうがよい。 【これからのまちづくりについて】 ●住みたくなるような、空き家をおしゃれにリフォーム、借りたりできる町になってほしい。新築は今高い。よい中古住宅物件があればと思う。 ●綾部神社、中原駅、中原庁舎の人の流れを作りたい。食糧難に備えて農業も大事にしていきたい。 ●中原駅も改善してほしい。中原庁舎も改善してほしい。駅と役場の開発もしてほしい。

施策分野	まちづくり活動、自主活動
ヒアリング対象	みやき町地域おこし協力隊 一般社団法人 地域資源活用推進協会 山田のひまわり園
ヒアリング内容	【まちづくり活動の現状】 ●産業がうまくいくには、供給と需要がうまくいかないといけない。空き家の利活用についていえば、空き家は500件あるのに、空き家バンクに登録されているのは7件しかない。 ●使いたい人がやってきたときに、すぐに提供できる環境を整えることが必要だ。 ●ひまわり園の活動については、高齢化により下火になるのではないかと危惧している。 ●種まきが8月の暑い中となり、時間を拘束してしまうので、ボランティアを頼むのも、天候に左右されるので難しい。 ●そうしたなかでも、多くの人がやってきてくれている。 ●企業がボランティアを10数名連れてきてくれる。 ●30日間の運営が必要なため、人員がいる。 ●近くの大学生が20数名来てくれたりしていた。 ●山田のひまわり園については大学、企業と連携していかないといけないと感じる。 【これからの活動について】 ●まちづくりについては、やみくもにおこなうのではなく、どう町を作っていくかの観点で行っている。現状では、データベースをまず優先に行っている。 ●住まいサポートというかたちで、孤独死のリスクの高い家等さまざまな情報を集めている。それはまちを作るために動くのではなく、問題の情報を集めようという目的で動いている。 ●古民家を福祉や飲食で再利用するということで一番困ることは、耐震性の問題で、新基準に対応しなければならない。それに莫大なお金がかかる。みんなが集まる場所ということであれば、最低限でよいのではないかと考えている。 ●農業ということといえば、食料品の値段が上がっているので農業をしたいという人が増えている。農地法の問題があり、借りることは難しい。体験農園もあるが、隣県は満杯となっている。みやき町には、体験農園はないのではないかと考えている。体験の延長というかたちで出せる環境をつくっていくとエコハウスにならないかと思っている。 ●まちの人の協力はあり、協力が得られれば思いや目標は達成できる環境にあるのではないと思う。 ●みやき町には優良な資源があるのにうまく活用できていない。それをうまく活用していけば、一番最初からお金を稼ぐということはすごく難しいけれども、食費を抑えられることで可処分所得を上げていくということから始め、その後物々交換に持っていくような形になっていけば、都会で住むよりも、田舎の方が豊かな生活ができる。 ●様々な人が場所を探しているが、ない状態にある。貸すといってくれる人がいない。

用語集

英 数

■ AI	「Artificial Intelligence」の略で、人工知能のこと。人間の脳が行っている知的な作業をコンピューターで模倣したソフトウェアやシステムのこと。
■ DX (デジタル・トランスフォーメーション)	「Digital Transformation」の略で、情報通信技術の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。
■ KDB システム (国保データベースシステム)	国保被保険者の健診・医療・介護の情報を一括把握し、地域課題の分析や個別保健指導等の支援を行うために活用するシステム。
■ IoT	「Internet of Things」の略で、従来インターネットに接続されていなかった様々なモノ（住宅・建物、車、家電製品、電子機器など）が、ネットワークを通じて相互に情報交換をする仕組み。
■ NPO	Non-Profit Organizationの略。様々な社会貢献活動を行う、民間の非営利組織の総称。
■ PDCA	P (Plan)・D (Do)・C (Check)・A (Action) という事業活動の「計画」「実行」「評価」「改善」サイクルを表す用語。
■ PFI	「Private Finance Initiative」の略で、公共施設等の建設、維持管理を民間の資金、経営能力や技術的能力を活用して行う手法。
■ Society5.0 (ソサエティー 5.0)	インターネット空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会 (Society)。(Society1.0：狩猟、Society2.0：農耕、Society3.0：工業、Society4.0：情報)
■ 5G	「5th Generation」の略で、「第5世代移動通信システム」を意味する。「高速大容量」「高信頼・低遅延通信」「多数同時接続」という特徴を持つ。DX 実現の基盤とされるシステム。

あ 行

■ アウタープロモーション	町のことを知らない人や訪れたことがない人を来訪させ、ファンを増やす取り組み。
■ インクルーシブ教育システム	人間の多様性を尊重することを基本として、障がい者が精神的及び身体的な能力等を最大限度まで発達させ、社会に参加できるようにするため、障がいのある人と障がいのない人が共に学ぶ仕組み。
■ インナープロモーション	住民や町内事業者等に町の魅力を訴え、住民の誇り、愛着心の向上につなげていく取り組み。
■ オーガニックビレッジ	有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取り組みを進める市町村のこと。
■ オープンデータ	公共の機関が保有するデータのうち、誰でも利用できるよう公開されたデータ。

か 行

■環境保全型農業	麦わらや家畜排せつ物等を有効利用して得られるたい肥等を活用した土づくり等を通じて、化学肥料・農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した農業のこと。
■関係人口	移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々。
■居住支援協議会	低額所得者、被災者、高齢者、障がい者、子育て家庭等といった住宅の確保に特に配慮を要する人（住宅確保要配慮者）が民間賃貸住宅へ円滑に入居できるようにするため、地方公共団体や不動産関係団体、居住支援団体等が連携し、住宅確保要配慮者と民間賃貸住宅の賃貸人の双方に対して情報提供等の支援を実施する取り組み。
■健康教育	健康について学ぶだけではなく、一人ひとりが健康について意識を向け、自らが健康を獲得できるように支援する取り組み。
■健康寿命	WHO（世界保健機関）が提唱した指標で、平均寿命から、寝たきりや認知症など介護状態の期間を差し引いた期間。
■みやき健幸大学	令和3年度に開始した、みやき町独自の健康増進事業。町内や大学病院の医療従事者や、市村清記念メディカルコミュニティセンター内テナント事業者、学習に関わる事業者などが講師となり、健康増進・予防医療・薬・終活・相続等の法律・認知症予防・運動機能改善等に関する知識を座学や実践により学ぶことができる。
■交流人口	通勤・通学者や観光客など、その地域を訪れる人々。
■子育て世代包括支援センター	妊産婦及び乳幼児並びにその保護者を主な対象とし、妊娠期から子育て期にわたり、切れ目なく支援する。対象の実情を把握し、妊娠・出産・育児に関する各種の相談に応じ、必要に応じて支援プランの策定を行う。
■子ども家庭総合支援拠点	管内に所在するすべての子どもとその家庭及び妊産婦等を対象に必要な支援を行う。特に要支援児童及び要保護児童等への支援の強化を図る。
■コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)	学校と保護者や地域住民が協力し合い、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える、地域全体で学校をつくる仕組み。
■コンプライアンス	組織が法律や条例だけでなく、社会的規範や企業倫理、社内規定、就業規則などの幅広い規則を守ること。

さ 行

■財政力指数	その団体が標準的な行政運営を行うために必要な一般財源のうち、地方税等の収入でどの程度まかなえるかを示したもの。1に近いあるいは1を超えるほど財政力がある。
■再生可能エネルギー	有限な資源である化石エネルギーとは違い、太陽光や風力、地熱といった自然界に常に存在するエネルギーのこと。
■サテライトオフィス	企業または団体の本拠から離れた所に設置されたオフィスのこと。
■実質公債費比率	町全体の公債費及び一部事務組合の公債費が財政に及ぼす負担を示す指標。
■自主防災組織	自治会などで住民が協力して、自分たちのまちは自分たちで守ることを目的に、様々な防災活動を行う組織。
■重層的支援体制整備事業	市町村において、既存の相談支援や地域づくり支援の取り組みを活かし、子ども・障がい・高齢・生活困窮といった分野別の支援体制では対応しきれないような「地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズ」に対応する包括的な支援体制を構築するため、「属性を問わない相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施するもの。

■集落営農組織	集落を単位として、農業生産の過程の全部又は一部を共同で取り組む組織のこと。
■スクリーニング	文部科学省では、「すべての児童生徒を対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援の必要な児童生徒や家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別」と定義。
■スクールカウンセラー	学校に配属され、生徒や教師の心のケアを行う者。
■スクールソーシャルワーカー	問題を抱える児童生徒を取り巻く環境へ働きかけや、関係機関等との連携・調整を行い、課題解決を図る者。
■スマートインターチェンジ	高速道路の既存施設から一般道に出入りできるよう設置された、ETC 専用の簡易型インターチェンジ。
■スマート農業	ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業のこと。
■青少年サポート隊	みやき町で平成 19 年度に結成されたボランティア団体。交通安全対策や、声かけ事案・誘拐等の防犯対策として、児童・生徒の登下校時間帯における通学路での見守りや子ども達への挨拶活動を実施している。
■成年後見制度	認知症や知的障がいによって判断能力が不十分な人が、生活をする上で不利益を被らないよう、成年後見人が本人の代わりに適切な財産管理や契約行為の支援を行うための制度。
■ゼロカーボンシティ	環境省では、「2050 年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を、首長自らもしくは団体として公表された都道府県または市町村」と定義。

た 行

■第三の居場所	自宅や学校、職場以外の義務や必要性に縛られない、居て心地のよい場所。
■タウンミーティング	みやき町で令和 4 年度に開始。住民とともに考え行動する「協働型社会」を創り上げていくために、子育てや少子化対策、地域活性化、防災対策、まちづくり等テーマを定めて、住民と町長との間で意見交換を行う取り組み。
■地域包括ケアシステム	要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるように地域内で助け合う体制のこと。それぞれの地域の実情に合った医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される体制を目指している。介護保険制度の枠内だけで完結するものではなく、介護保険制度と医療保険制度の両分野から、高齢者を地域で支えていくものとなる。
■地籍調査	国土調査法に基づく国土調査のひとつで、市町村が主体となって、一筆ごとの土地の所有者、地番、地目を調査し、境界の位置と面積を測量する調査。
■地方創生	東京一極集中を是正し、人口減少に歯止めをかけるため、地方での安定した雇用の創出や、若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえることなどにより、地域の活性化を目指すこと。
■通級指導教室	特定の学習障害等をもつ児童・生徒が、特性による学習上・生活上の困難を改善し、又は克服するため、大部分の授業を通常の学級で受けながら、一部、特性に応じた指導を通級指導教室で受ける指導形態のこと。

■ デジタルデバイド	インターネットやコンピューターを使える人と使えない人との間に生じる情報格差のこと。
■ テレワーク	厚生労働省では「情報通信技術（ICT）を活用した時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方」と定義。本拠地のオフィスから離れて仕事をする事。
■ 特定地域づくり事業協同組合制度	人口急減地域において事業者単位でみると年間を通じた仕事がないという課題に対して、地域の仕事を組み合わせて年間を通じた仕事を創出し、組合で雇用した職員を複数の事業者へ派遣することで地域の担い手を確保する取り組み。
■ 土地改良施設	農業のための用水施設や排水施設、道路、その他農業をするにあたり有益な施設の総称。貯水池、揚水機場、水路、農道、土留工、防風林、防災ダム等が該当する。

な 行

■ 妊娠出産包括支援事業	妊娠期から子育て期にわたる総合的相談や支援を取りまとめてで行うとともに、全ての妊産婦の状況を継続的に把握し、要支援者には支援プランを作成する事業。地域の実情に応じて、産前・産後サポート事業、産後ケア事業等を実施する。
■ 農福連携	障がい者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取り組みのこと。障がい者等の就労や生きがいの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野の課題を解消することが期待される。

は 行

■ ハイリスクアプローチ	健康障害を引き起こすリスクのうち、特にリスクが高い患者に対して、そのリスクを下げるように働きかけること。
■ パートナーシップ制度	各自治体が同性同士等のカップルを婚姻に相当する関係と認め証明書を発行し、様々なサービスや社会的配慮を受けやすくする制度。
■ 人・農地プラン	農業者や地方公共団体、農業協同組合等の関係者による話し合いに基づき、地域における農業の将来のあり方や、今後の地域を支えていく農業者として地域が認めた人（中心経営体）などを明確化し、地方公共団体が公表するもの。
■ ファミリー・サポート・センター	子育ての手助けをしてほしい人（依頼会員）と、子育てのお手伝いをしたい人（提供会員）が会員登録を行い、一時的な子育てを助け合う有償のボランティア活動。
■ ブックスタート事業	子どもとその保護者が本に接するきっかけづくりのため、乳児検診時等に絵本を配布する事業。
■ フットパス	イギリスを発祥とする森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くことができる小道のこと。
■ フリーランス	会社や団体等に所属せず、仕事に応じて自由に契約する人のこと。主にライターやカメラマン、デザイナー、プログラマー等で、個人で仕事をしている人を指す。
■ ポピュレーションアプローチ	保健事業の対象者を一部に限定せず集団全体へ働きかけを行い、全体として健康障害へのリスクを下げること。

や 行

- | | |
|---------------|---|
| ■ヤングケアラー | 本来、大人が担うような家事や家族のケア（介護や世話）を日常的に行う子どものこと。 |
| ■要保護児童対策地域協議会 | 子どもやその家庭に関する情報や考え方を共有し、虐待をされそうな子ども等を早期に発見し、児童虐待を未然に予防するために組織される、行政、児童相談所、学校、警察、病院等で構成する協議会。 |

ら 行

- | | |
|--------|---|
| ■流域治水 | 集水域（雨水が河川に流入する地域）から氾濫域（河川等の氾濫により浸水が想定される地域）にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方。 |
| ■レスパイト | 「小休止」「息抜き」「休息」を意味し、介護者が一時的に介護を離れ、リフレッシュや休息をとる介護者のためのケアを意味する。 |

第三次みやき町総合計画

発行：令和 5 年 3 月

〒 849-0113

佐賀県三養基郡みやき町大字東尾 737-5

みやき町総務部総合政策課

TEL：0942-89-1654

[令和 5 年 4 月から]

みやき町総務部総務課

TEL：0942-89-1651